

『宮澤徹子の尋問』

裁判官：検察官どうぞ。

検察官：あなたは今年の4月13日に被告人宮本武蔵が佐々木小次郎さんを殴った現場にいましたね。

徹子：はい。

【坂野と武蔵の関係】

検察官：その時のことについては後ほどお聞きしますが、まず、坂野さんと被告人の関係についてお聞きします。あなたと被告人はどのような関係ですか。

徹子：高校時代の同級生で、以前付き合っていた元カレです。

検察官：いつからいつまでお付き合いをしていたのですか。

徹子：高校2年の3月から今年の3月まで。

検察官：3年間付き合っていたんですね。

徹子：はい。

検察官：被告人はどのような性格ですか。

徹子：普段は優しい人ですが、気分屋で、突然怒り出すことがよくあります。

検察官：被告人は怒るとどうなりますか。

徹子：キレてしまうような感じですかね……。とにかく暴れて誰も止めることができない状態になります。

検察官：被告人と別れた理由はなんですか。

徹子：武蔵の怒りっぽい性格に私が我慢できなくなったので。

検察官：被告人はあなたとの別れることについて納得していたのですか。

徹子：私から別れを告げたのに対し、武蔵は最初は「別れたくない」と言いましたが、よく話し合ったので最終的には武蔵も別れることに納得していたと思います。

【徹子と小次郎の関係】

検察官：あなたは佐々木小次郎さんとはどのような関係ですか。

徹子：高校時代の同級生で、今お付き合いをしている彼氏です。

検察官：いつからお付き合いをしているのですか。

徹子：今年の4月からです。

検察官：お付き合いのきっかけはなんですか。

徹子：小次郎に武蔵とのことを相談しているうちに、武蔵とは正反対な穏やかで知的な小次郎の性格に惹かれていったっていう感じですね。

【事件当日のこと】

検察官：では、今回の事件についてお聞きます。今年の4月13日の夕方、あなたはだれとどこにいましたか。

徹子：その日は小次郎と巖流島でデートをしていました。夕日を見ながら砂浜を歩いていました。

検察官：砂浜を歩いているときに何かありましたか。

徹子：近くに人気を感じたので前を見ると、武蔵がはんにゃのような顔をしてこっちを見ていました。

検察官：被告人を発見したときの被告人との距離はどれくらいでしたか。

徹子：10メートルくらいだったと思います。

検察官：被告人は何か持っていましたか。

徹子：木刀を持っていました。

検察官：木刀をどのように持っていましたか。

徹子：こういう感じです。（動作をする。）

検察官：刃先を下に向けて、腰の位置で両手で持っていたような感じですね。

徹子：はい。

検察官：それでどうなりましたか。

徹子：武蔵はまっすぐ上に木刀を振り上げたかと思うと、こちらに向かってすごい勢いで走ってきて、「チェストー」などと言いながら小次郎に向かって木刀を振り下ろしました。

検察官：あなたは、そのとき、どこにいましたか。

徹子：驚いて足が動かず、小次郎のすぐ横にいました。

検察官：被告人は小次郎さんのどこを殴ろうとしていましたか。

徹子：頭をねらっていました。

検察官：なぜ頭をねらっていたといえるのですか。

徹子：振り下ろした木刀が小次郎の頭に当たったからです。

検察官：頭以外にはあたりませんでしたか。

徹子：腕にも当たりました。小次郎はとっさに自分の右腕をあげて頭を防御しましたが、防御が不十分で腕に当たった後、頭に木刀があたりました。

検察官：小次郎さんは木刀があたってどうなりましたか。

徹子：額から血がでました。

検察官：次に被告人はどうしましたか。

徹子：まだ小次郎に殴りかかろうとしていたのですが、小次郎が走って逃げたので、武蔵はそれを追いかけていきました。

検察官：小次郎はどこに逃げたのですか。

徹子：海岸のさんぼし棧橋まで逃げたのですが、逃げ場がなくなって、近くにとまっていた漁船に逃げ込みました。

検察官：小次郎を追いかけていた被告人はどうしましたか。

徹子：武蔵も漁船に乗り込んでいきました。

検察官：それで、どうなりましたか。

徹子：うーん、漁船の操縦室が邪魔で、よく見えませんでした。

検察官：漁船の上で二人がもみ合っていたのではないですか。

弁護人：異議あり！今のは誘導尋問ゆうどうじんもんです。

裁判官：検察官のご意見は？

検察官：二人がもみ合っていたところを見たかどうかを聞いただけです。

裁判官：異議を認めます。検察官は質問を変えて下さい。

検察官：漁船の上で、被告人は何か言っていましたか。

徹子：遠いところから見ていたし、私も必死で彼らに追いつこうと走っていたので。何か言っていたとしても、聞こえなかったと思います。

検察官：なぜあなたは彼らに追いつこうとしていたのですか。

徹子：武蔵の顔が、今まで見たことのないはんにゃのような顔だったし、ものすごい勢いで小次郎の頭を殴っていたので、小次郎が武蔵に殺されてしまうと思い、なんとか止めようと思ったからです。

検察官：あなたはどこから漁船の上の二人の様子を見ていたのですか。

徹子：さんぼし 棧橋から様子をうかがっていました。武蔵の顔があまりにも恐ろしかったので、船に乗り込む勇気が出なかったんです。

検察官：その後、どうなりましたか。

徹子：どぼんっという音がして武蔵が漁船から落ちたようでした。漁船から下りてきた小次郎は頭から血を流して呆然としていました。

【その他】

検察官：ところで、被告人が小次郎さんに殴りかかったとき、あたりは明るかったですか。

徹子：夕日が出ていたのでまだ明るかったと記憶しています。

検察官：あなたの視力はいくつですか。

徹子：両目とも 1.0 です。

検察官：ちなみにあなたは誰かに似ていると言われたことはありますか。

徹子：そうですね、AKB48の板野友美に似ているとよく言われます。

検察官：被告人も、あなたのような美人を奪われたらさぞかし悔しかったでしょうね。以上です。

裁判官：弁護人、反対尋問をどうぞ。

弁護人：あなたは武蔵さんと以前お付き合いをされて、一ヶ月前に別れたばかりでしたね。

徹子：はい。

弁護人：お付き合いしていた時にはケンカばかりしていたようですね。

徹子：はい。

弁護人：あなたは武蔵さんと別れた後、あなたの友達などに被告人の悪口をさんざん言っていたようですね。

徹子：・・・

弁護人：あなたは武蔵さんのことが嫌いだから、事実とは違う、武蔵さんに不利な証言をしているのではありませんか。

検察官：異議あり！事実ではないことを前提とする誤導尋問ごどうじんもんです。

裁判官：弁護人の意見はどうですか。

弁護人：証人の証言の信用性を判断するために必要な尋問です。

裁判官：検察官の主張のとおり、証人は被告人を嫌いという証言をしていませんので、事実でないことを前提としている誤導尋問ごどうじんもんと判断し、異議を認めます。弁護人は質問を変えてください。

弁護人：ところであなたは剣術などに詳しいですか。

徹子：いいえ。

弁護人：袈裟切りけさぎという技を知っていますか。

徹子：いいえ、知りません。

弁護人：相手の肩などをねらって相手の頭上から斜め下に振り下ろす技なのですが、武蔵さんはその袈裟切りけさぎをしていたのではないのですか。

徹子 : わかりません。

弁護人:ではあなたには,被告人がどう木刀を振り下ろしたように見えたのですか?

徹子 : 目にもとまらぬ早さだったのでよく見えませんでした。

弁護人:小次郎さんが避けたのは見えましたが?

徹子 : いえ,ブンという木刀を振り下ろす音がしたと思ったら,私の隣にいたはずの小次郎さんは,地面に転がっていました。

弁護人:すると,あなたは武蔵が殴ったところも小次郎さんが避けたところも見えていないのですね。

徹子 : はい。二人とも動きが速すぎて,スローモーションに見えたくらいです。

弁護人:小次郎さんは,どこに倒れ込んだのですか?

徹子 : 私の右側1メートルくらいです。

弁護人:あなたは先程漁船の上での被告人と小次郎さんのやりとりが,操縦室が邪魔でよく見えなかったと言いましたね。

徹子 : はい。

弁護人:では,被告人が漁船の上で小次郎さんに殴りかかったところは見えていないのですね。

徹子 : はい。

弁護人:あなたは板野友美に似ていると誰に言われたのですか?

徹子 : 小次郎さんです。

弁護人:いつ言われたのですか?

検察官:異議あり!本件とは関連性がない尋問です。

裁判官:弁護人ご意見は?

弁護人:証人の証言の信用性に関する重要な事項です。

裁判官:異議を棄却ききやくします。弁護人は続けてください。

弁護人:改めて聞きますが,小次郎にいつほめられたのですか?

徹子 : 昨日の夜です。

弁護人：小次郎さんはいつもそうやってほめてくれるのですか？

徹子：板野友美似でかわいいなんて言っていつてくれたのは初めてだったので、
今日も小次郎さんのために頑張ろうと思いました。

弁護人：それにしても眉毛が太すぎやしませんか。

検察官：異議あり！証人に意見を求めています。

弁護人：感想を述べただけですが撤回します。あなたは小次郎さんにかわいいと言
ってもらうために、嘘の証言をしてはいませんか？

徹子：私も一人の女です。

弁護人：終わります。

裁判官：宮澤徹子さん、長い時間お疲れ様でした。傍聴席に戻ってください。